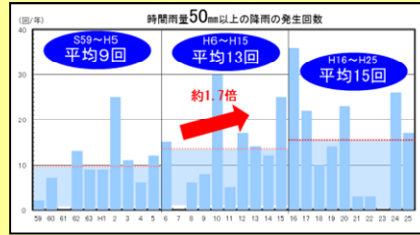


流域の概要

近年多発する局地的豪雨により、中小河川や都市下水路など小流域の浸水被害が多発

【静岡県における時間雨量50mm以上の発生回数】

- ・過去(S59～H5) 10ヶ年での平均発生回数は9回 (H6～H15) 10ヶ年での平均発生回数は13回
- ・近年(H16～H25) 10ヶ年での平均発生回数は15回



静岡県西部の小笠沢川流域では、過去から多くの浸水被害に見舞われており、近年では平成16年11月洪水(76mm/h)により床上4戸、床下75戸、緊急輸送路2路線の浸水被害が発生 ⇒ 頻発する局地的豪雨に対して早急な浸水対策が急務

- ・流域内人口 9,490人 (S49) → 12,350人 (H25) 約1.3倍
- ・対象降雨：平成16年11月11日～12日降雨 最大時間雨量76mm
- ・河川整備：河川整備計画1/10
- ・下水道整備：雨水排水計画1/7

【浸水被害の主な要因】

- 流域内の市街化が進み、流出量が増大。浸水に対する危険度が増大
- 地形的要因(窪地地形)により河川への排水が困難、河川改修だけでは効果がない
- 都市化の進展等により、河川改修に多大な費用と時間を要する

⇒流域における浸水対策を関係機関が一体となり効果的に組み合わせ推進する必要がある

袋井市街地の総合的な治水対策について、行政・流域自治体からなる「袋井市中部豪雨災害対策アクションプラン推進協議会」で検討

袋井市中部豪雨災害対策アクションプラン推進協議会

組織	部局
県関係	河川企画課、河川海岸整備課、都市計画課、土地対策課 生活排水課、農地計画課、農地保全課、袋井土木事務所 中遠農林事務所、西部危機管理局
市関係	防災課、企画政策課、農政課、都市計画課、建設課、 下水道課

100mm/h安心プラン

計画期間：平成26年度～平成34年度

至東京

対策箇所図

原野谷川左岸4号雨水幹線整備 1式

校庭貯留V=1,000m³

校庭貯留V=600m³

調整池V=15,000m³

橋梁架替 1式

H16.11.12浸水区域
床上浸水4戸、床下浸水75戸

太田川 河道掘削工
L=1.0km(全体3.5km)



凡例

- 河川
- 河川事業
- 下水道事業
- 貯留・調節施設
- 浸水域

取組の概要

- ・近年、床上浸水被害が複数回発生している流域において、局所的河川改修、下水道整備を集中的に実施
- ・流域における治水施設や公共施設等の治水機能を引き出す流域全体での対策
- ・想定を超える豪雨に対し、流域住民との協働により被害を最小化するためのソフト施策

- ・関係機関でPDCAサイクルによる進捗管理を実施
- ・進捗状況について毎年公表するとともに、住民との協働により推進

目標期間(9ヵ年)における効果を確認しながら順応的に計画を修正し、流域全体の安全度を高める

取組の効果

○期間内(H26～H34)に関係機関が対策実施することにより、対象とする降雨と同規模の降雨に対して流域で床上浸水被害を解消。